２０２１年３月のルクセンブルク経済・金融情勢について，各種報道をとりまとめたところ、次のとおり。

１　統計関連

●　２０２１年３月のインフレ率は年率１．９８％（前月-０．０８％）（４月７日付統計局プレスリリース）

●　２０２１年２月の失業率は６．２％（前月６．４％，前年同月５．４％）、２０２１年３月の失業率は６．１％（前年同月６．１％）（４月２０日付統計局及び職業安定所プレスリリース）

●ＳＴＡＴＥＣによれば、パンデミックがゆっくりと収束へ向かい、ワクチン接種が迅速に行われ、企業活動が再開された場合、２０２１年、ルクセンブルク経済の実質成長率は４％に戻る可能性がある。（３月１日付当地報道機関ＲＴＬ）

●新型コロナウイルスのパンデミックが始まってから１年となることを受けたLuxembourger Wort紙の調査結果によれば、ルクセンブルクでは約６０％の人々が、パンデミックによって家族や友人との交流がなくなったと回答している。また約７０％の回答者がパンデミックは自分の生活に悪影響を与えたと回答した。また、影響がなかったとする人々は１９．８％に対して、１０人に１人が自分の生活にポジティブな影響を与えていると回答している。（３月３日付Luxembourg Times紙）

●市場調査会社のQuest社による計５００人を対象とした調査によれば、ルクセンブルクにおける労働者の内、パンデミックによって、２０％が精神的に大きな影響を受けた反面、５７％が緊張感は感じているものの、対処することができている。また在宅勤務によって生産性が向上したという回答者は少なく、労働者の３人に２人はそれを神話だと考えている。（３月５日付当地報道機関ＲＴＬ）

●ルクセンブルクにおいて、全ての労働者の内、女性は３８％を占める反面、女性管理職の割合はＥＵの中で最も低い水準にあり、全体の２８％であった。ＥＵにおける女性管理職の割合は、２００２年の第２四半期には３０％弱であったが、現在は３４％に徐々に増加している。（３月５日付当地報道機関ＲＴＬ）

●ルクセンブルクにおいて、２０２２年までに運行されるバスの４０％が電動となる。（３月９日付当地報道機関ＲＴＬ）

●幸福度をランキングで示す国連の「世界幸福度報告書」が発表され、ルクセンブルクは８位であった。（３月１９日付当地報道機関ＲＴＬ）

２　政府等関連

●３月６日、グラメーニャ財務大臣はアフリカ開発銀行（ＡｆＤＢ）理事会臨時会合に参加し、ドイツ、スウェーデン、デンマークとともに、一部の重要株主の格下げ見通しによるＡｆＤＢの格下げを回避するため、ＡｆＤＢの請求払資本の特別かつ一時的な増加を約束した。（３月６日付財務省コミュニケ）

●グラメーニャ財務大臣は、国民議会において、２０２１年２月末時点の財政状況について、報告を行い、「２０２１年２月末の財政状況は、やや安心感のあるものになっている。政府の収入は前年同期比＋３．８％の３４億ユーロとなった。この数字は、２０２０年の最初の２ヶ月間がパンデミックの影響を受けなかった唯一の期間であり、貴重な比較ができる可能性があるため、より安心感がある。」と述べた。欧州会計方式（ＥＳＡ２０１０）に準拠した２月末までの直接税の徴収金額は１６億５，０００万ユーロで、２０２０年２月と比較して＋９．５％の増加となった。付加価値税等の収入は、１％の微増で、１１億４，８００万ユーロに達した。税関からの収入については、２０２１年１－２月期でも、徴収した収入は２億５３００万ユーロで、▲１７．９％の大幅な減少となった。このマイナス成長は、パンデミックによる景気後退とテレワークの普及による影響に加え、２０２１年当初に炭素税の導入により、近隣諸国との価格差が縮小したことによるものである。しかし同時に、当国の気候目標に沿って温室効果ガスの排出量が削減されたことも歓迎すべきことである。ＥＳＡ２０１０に準拠した政府の総支出額は３５億ユーロで、２０２０年の１－２月期と比較して＋１．６％の増加にとどまった。注目すべきは、投資額が２億１，５００万ユーロ（＋１２．７％）に達したことであり、これは本政権の特徴である経済とイノベーションへの支援政策を示している。収入の増加率（＋３．８％）が支出の増加率（＋１．６％）を上回ったため、２月末時点の財政赤字は、▲１億１，７００万ユーロとなり、２０２０年２月のマイナス収支（▲１億８，９００万ユーロ）よりも減少した。（３月２２日付財務省コミュニケ）

●国際女性デーを受けて、ユーロスタットが出した報告書によれば、ルクセンブルクは女性議員及び政府閣僚の両方の点において、ＥＵ平均を下回っている。国民議会の６０人の議員の内、１９人が女性であり、これは３２％に相当する。これはＥＵ平均の３３％を下回り、加盟国２７カ国の内、１１位である。また政府閣僚１７人の内、５人が女性であり、これはＥＵ平均の３３％を下回り、加盟国２７カ国中１４位である。（３月１８日付当地報道機関ＲＴＬ）

●当国は、-０．０４５％というマイナス金利での債券発行による資金調達を成功裏に終えた。１０年債を２５億ユーロ分発行しており、償還は２０３１年３月となる。（３月１７日付財務省コミュニケ）

●当国の国家倫理委員会の報告において、時間経過及び利用可能なワクチン量の増加に伴い、ワクチン証明書の導入を回避できないと結論づけた。同委員会は、欧州モデルの、いわゆるデジタルグリーン証明書のアイデアを支持しており、これは最終的には、同証明書が渡航時のＰＣＲ検査の陰性証明に取って代わる可能性を意味する。現時点では、当国のワクチン接種戦略において、ワクチン未接種者が当国居住者の大多数を占める中で、同委員会は、ワクチン接種者に対する特権付与に反対しており、最終的には、国際的に認められた証明書を使用することを支持しつつも、それを「特権的なパスポート」と見なすべきではないと強調している。（３月１９日付当地報道機関ＲＴＬ）

３　企業等関連

●世界的なＩＴ企業であるＩＢＭルクセンブルク支店は、職員の１０％にあたる３８人の従業員を解雇する。これは新型コロナウイルスによる危機には関係なく、業務コストの削減とより自動化を進めるためと説明されている。（３月１１日付Luxembourg Times紙）

※当国政府機関の公表資料や各種報道などの公開情報をとりまとめたもの。